

わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(8月)

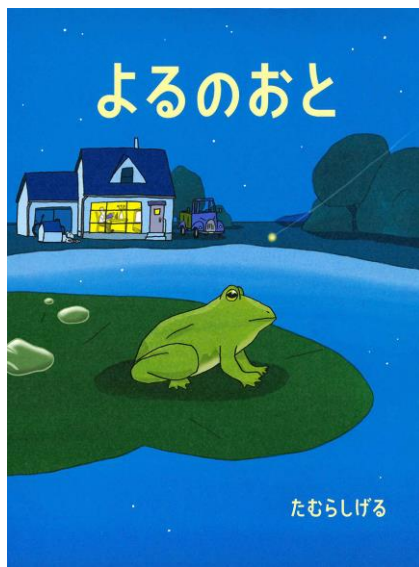
<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎
矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



『よるのおと』

たむら しげる 作 / 偕成社
受賞歴：全国学校図書館協議会・選定図書(2017)
産経児童出版文化賞・大賞(2018)



1日生活する中で朝、昼、夜とサイクルの連続です。私は朝型の習慣ですから、早く目が覚めます。朝の音もありますし、また、朝に生き物との出会いで、考えることもあります。

この絵本は、短い時間の中で多くのロケーションの展開があり、多感的に風景を楽しむことができます。心が豊かになり観察力と思考力がつく絵本です。

芭蕉の“古池や蛙飛びこむ水の音“に感動して作者は、この絵本を描いたそうです。

内容のご紹介

男の子が池のほとりを歩いています。もうすぐおじいさんの家につくところです。もうすっかり日がくれて、空には月が輝いています。リリリ、リリリ。虫が鳴いています。遠くからは列車の汽笛。池に浮かぶハスの葉にはカエルがいます。シカの親子も水を飲みに来ているようです。

ほんの数十秒のあいだにおこる小さなドラマの数々。そこにひろがるゆたかな世界。ページをめくることが一つの体験だということが感じられる絵本です。

作者が9歳の時に出会った松尾芭蕉の句「古池や 蛙飛びこむ 水の音」、であったそのときからずっと胸に大切にしまってきた思いが60年たったいま、ようやく絵本として結実した作品です。

参考文献：偕成社紹介抜粋 (矢祭もったいない図書館)